

ボランティアセンター Newsletter

創刊号

2018.4.1 Vol.01



ボランティアセンター センター長
人文学部福祉実践学科 教授

浅井正行

「ボランティア」の ご経験がありますか？

さて、あなたはボランティア活動のご経験がありますか？

もしもあなたが、「No!」と答えたのであれば、なぜ今まで経験することがなかったのでしょうか。そもそも自分の身近にボランティアの環境がなく、参加する機会に恵まれなかったのかも知れませんが、なんとなく敷居が高く、とっつきにくかったという人もいますかも知れません。また、ボランティアというと、「自己犠牲」の精神が要求され、身を粉にして、他人のために尽くす「奉仕活動」というイメージがあり、ボランティア未経験者は、やや尻込みしてしまうかも知れません。

結論から申しましょう。ボランティア活動は、「世のため人のため」のものではありません。ボランティアとは、自分自身のために行うものなのです。これは、私の経験から導き出された結論です。私は、大学院に入学するためにアメリカへ渡りました。それから13年強の滞米生活で、さまざまなボランティア活動を経験しました。思い出す限り挙げてみるとしましょう。高齢者宅の訪問、病院への付き添い・通訳、高齢者宅の郵便チェック、ランチの配膳、カウンセリング、高齢者グループの運営、エイズ・HIV予防啓発活動、小学校児童との交流などが思い出されます。これだけではありません。日系の人々のために開催された日本人演歌歌手コンサートの誘導係というものもありましたし、高齢者への太極拳レッスンというものもありました。ここでは書ききれませんでしたが、実際は、ここに挙げた倍以上の種類のボランティア活動に参加したのでしょうか。そして、これらの活動は、すべて無給であることは共通していますが、私自身の専門性や知識を活かした活動もあれば、特別な資格や経験など全く必要のない活動もあることがお分かりでしょう。

専門的知識や経験がなくても参加できるボランティアもあると書きましたが、とは言え、自分の貴重な「時間」や「労力」を無償で提供しなければならないのも事実です。ではなぜ、私は多くのボランティアをやり続けたのでしょうか。答えは簡単です。自分が提供したものの以上のものが、自分自身にかえってくるからです。私自身が若かりし頃に、(大人になってからも)関わってきたすべての活動が自分を成長させてくれたのです。今の私を作り上げてくれたのが、ボランティア活動だといっても過言ではないのです。また活動を通して出会った人びとから多くを学び、私自身の視野が大いに広がりました。これらは実に貴重な経験となり、かけがえのない出会いとなりました。

ボランティア活動は、私の人生の可能性を膨らませてくれました。事実、私が大学院博士課程に進学できたのは、私の過去のさまざまなボランティア活動の経験を評価してくれたからです。成績だけでは進学は難しかったかも知れません。これまで行ってきたボランティア活動の数と種類では、明星大学の誰にも負けたいと自負しています。私が大学の授業の中で、ボランティア活動から得た体験談を学生たちに語ることができるということが、私自身の強みであり武器だと思っています。

私の願いはただ一つです。明星大学の学生たちにも是非多くのボランティア活動に参加してもらいたいです。私が大学院時代から経験・体験したボランティア活動を通して得た充実感、達成感、喜びを学生たちにも感じて欲しい、そして多くの困難を乗り越えられる強さと自信を獲得してもらいたいです。ボランティア活動を実際に経験することにより、学生たちは、ボランティアは「与える行為」だけではなく、それ以上に自分自身が「与えられる存在」となっていることに気付くことでしょう。

ボランティア活動を経験した学生たちは、より力強く、そして柔軟で謙虚な精神をもって社会へと飛び立っていくであろうと信じています。私自身、ご縁あって明星大学のボランティアセンター長という役職を担わせていただいています。ボランティア活動の素晴らしさを一人でも多くの学生の皆さんに伝え、またボランティア活動への「とっつきにくさ」や「敷居の高さ」を一つひとつ解消し、参加しやすいボランティア環境を作っていきたいと思っています。

明星大学は こんなボランティア活動 をしています

現在、明星大学ボランティアセンターに登録しているボランティア団体は16団体を数えます。学生たちは、これらの団体を通して、あるいは個人として、自分に合ったスタイルでボランティア活動に関わっています。活動する分野やエリアも大変幅広く、学生一人ひとりが自分たちの想いを活かし、活発に活動しています。

ボランティアサークル(団体活動)

	団体名(登録順)	創設年	サークル紹介
1	教育研究部	1966	子ども会のレクリエーションを部員で企画し、より子どもたちに喜んでもらえる会を目指しています。部員一人一人に役割が与えられるので、将来役立つこと間違いなし!
2	初等教育研究会 どろんこの会	1964	15か所の文化センターや児童館などと協力して子どもを楽しませ、自分たちも楽しめる活動をたくさん行っています。学生交流のイベントも行っています。Twitter⇒@doronko_meisei
3	SMILY (スマイリー)	2006	主に発達障害の子どもたちとふれあい、学び合うことを目的としています。毎週金曜日にミーティングを行い、土日に活動しています。子どもたち・学生たち・保護者みんな笑顔で活動しています。
4	ひまわり	2008	七生福祉園低年1寮(3才～小学校3年生)の子どもたちと、学生たちの考えた遊びを一緒にを行います。
5	へき地教育研究会	1969	約一週間、地方の小学校・幼稚園を訪問し、先生方・子どもたち・地域の方との交流を行います。
6	BUKAS (ブーカス)	2009	①海外ボランティアスタディツアー ②児童養護施設でのボランティア
7	Star Shops Supporters (スターショップスサポーターズ)	2009	「世界につながるOne Action」をコンセプトとして、障害のある方と共に、イベントの企画・運営などを行っています。
8	防犯ボランティア隊 MCAT (エムキャット)	2010	主に授業の空き時間に、見回りパトロール・児童の下校サポートなどを行っています。また地域の警察との防犯・交通安全活動や、市役所などと連携して様々な地域貢献活動を行っています。
9	Rainbow Sign (レインボーサイン)	2009	大学内唯一の手話サークルです!挨拶や自己紹介などの日常会話を中心に、実際に使える手話をレクリエーション等を通して楽しく学んでいます。
10	Merci (メルシー)	2011	福祉実践学科一期生の「一期生として何かしたい」という思いから作られたサークルです。障害・高齢者支援等の幅広い分野で活動しています。
11	減災プロジェクト Fine (ファイン)	2013	「東日本大震災から学び生かす」をテーマに、減災・防災について考えています。明星大学や周辺地域の減災・防災活動を行うほか、実際に被災地を訪れる活動もしています。
12	虹色の薔薇の会	2014	主な活動は夏休みに一週間ほど岩手県田野畑村を訪問し行う、心理的被災地支援活動です。子どもたちと遊んだり、地域の方と様々な企画を通して交流したりします!
13	SEASON	2015	子ども会や自然学校、児童館、スポーツ教室、夏キャンプ、冬スキーなど、リーダーとして活動に参加します。ひの社会教育センター、みなみだいら児童館ぷらねっとでの通年活動です。
14	ダブルダッチサークル Shakin Key !! (シェイキン キー)	2013	普段は大会やイベントに向けての練習が中心ですが、沢山の人達にダブルダッチを楽しんでもらえるよう、小学校や地域のお祭りなどでパフォーマンスの披露や体験会などを行っています。
15	自転車競技部	1996	「自転車競技×ボランティア」。競技部だからこそできる目線で、事故防止や競技の普及活動を行っています。自転車競技の魅力を沢山のの人に伝えたいです。
16	Freedom music (フリーダムミュージック)	2018	子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる音楽を、地域の行事やボランティア活動で演奏しています!

個人ボランティア(個人活動)

個人で活動する学生は、「今すぐに活動したい」、「時間があるので何かしたい」、「将来の役に立てたい」など、ちょっとしたきっかけで活動をスタートしています。枠にとらわれずに、自分のペースで自由に活動できるのが特徴です。

活動分野は？

「学習支援」「障害児・者支援」「高齢者支援」「地域支援」「安全・防犯活動」「イベント支援」「環境保全活動」「海外支援」「子ども支援」「災害復興支援」などがあります。

学習支援

大学近隣の小・中学校の補講授業や学習サポートをしています。小学校では朝の会での「本の読み聞かせ」を通して、児童との素晴らしい交流が生まれています。



小学校の朝の会での本の読み聞かせ



小学生たちのスポーツ活動を支援

障害児・者支援

地域の障害児との触れ合いの活動を行っています。学生たちが、子どもたちとスポーツやゲームを通して楽しい時間を共有します。



障害のある子どもない子どもと一緒に遊ぶ
「みんなの遊・友ランド」(日野市)におけるサポート活動



「みんなといっしょの運動会」に参加・お手伝いをした学生たち

高齢者支援

地域の高齢者に寄り添う活動に積極的に参加しています。大学近隣の老人会、自治会などに参加し、歌やダンスなどを披露して交流の場を作っています。



集会所で地域の高齢者とレクリエーションを楽しむ学生たち



高齢者も多く暮らす日野市の活性化について、市民と一緒に考えるイベントに参加

地域支援

日野市では、地域の課題を地域の力で解決し、自分たちのまちの魅力を向上させることを目指し、各中学校区ごとに地域懇談会、アクションプランを継続的にを行っています。学生たちも三中地区において様々な地域活動を地域の方々と共に考え実践しています。(明星大学は三中地区)



地域懇談会での発表風景



アクションプランでの簡単防災訓練「かえるキャラバン」実施風景

安全・防犯活動

大学近隣地域のパトロールを定期的に実施しています。また、交通事故防止キャンペーン・振込詐欺防止活動イベントなどに参加し、日野警察署と協力・連携しながら日野市の安心・安全なまちづくりに協力しています。



自転車の交通事故防止活動に協力する活動



大学近隣の小学校下校時の見守り活動

イベント支援

日野市・八王子市主催のイベント(新選組まつり、市民活動フェアなど)を通じて、地域の方々と共にまちの活性化に貢献しています。



「ひの新選組まつり」での安全見守り活動



地域の祭りのMCを学生が担当し、祭りの盛り上げに一役買った

環境保全活動

地域の方々と清掃活動や河川・山を守る美化・環境活動に協力しています。



大学近隣地域を住民の方々と共に清掃活動をする学生たち



大学近くを流れる河川の清掃活動に参加した学生たち

海外支援

学生たちがフィリピン・ベトナム・カンボジア・ラオスなどに赴き、現地の子どもたちとの国際交流活動を行っています。一緒に遊んだり、日本の文化を伝えたりして、国境を越えた素晴らしい出会いが生まれています。



現地の小学生を訪ねた学生たち



子どもたちとダンスを楽しむ学生たち

子ども支援

学生たちは、子どもたちのための様々な活動を支援しています。学生自身で企画・運営に関わったイベントやアクティビティは、子どもたちの思い出づくり・体験づくりをサポートしています。



新潟の子どもたちの「東京留学体験」
学生たちが明星大学キャンパスで「おもてなし」



学生が企画・運営に携わった子ども会の夏のキャンプ

災害復興支援

福島県いわき市と熊本県阿蘇市の災害公営住宅・仮設住宅を訪問しています。

いわき市には2011年8月より（2012年からは年2回）、阿蘇市には2017年より、学生たちと被災者の方たちとの交流活動を行っています。

福島県いわき市



東日本大震災災害公営住宅の方たちと手巻き寿司作りをする学生たち

熊本県阿蘇市



熊本大震災仮設住宅を訪ね、被災者の方々と交流する学生たち



被災者の方々とおしゃべりを楽しむ学生たち



被災者の方々とフォトフレーム作り



被災者の方々にフラダンスを披露



仮設住宅の高齢者と歌で交流

明星大学のボランティア活動が高い評価をいただいています

警視総監賞受賞

平成26年5月、「防犯ボランティア隊MCAT」が警視総監賞受賞という栄誉に輝きました。彼らの交通安全運動や地域見守り活動が、地域の安全に貢献したことが評価されたものです。



ナジック賞

一般財団法人学生サポートセンター（ナジック）主催の「平成29年度学生ボランティア団体に対する助成事業」コンテストで、「虹色の薔薇の会」が選ばれ、表彰されました。平成26年度は「MCAT（エムキャット）」、平成27年度は「Merci（メルシー）」、平成28年度は「教育研究部」が表彰され、明星大学のボランティアサークル活動が高く評価されています。



「八王子市海外友好交流」の学生代表に選出・台湾へ

平成29年、ダブルダッチサークル Shakin Key!! が、八王子市の姉妹都市・台湾高雄で開催された「高雄ランタンフェスティバル」に参加しました。彼らは、学生のボランティア代表として見事なパフォーマンスを披露し、「八王子市のPR」という大役を見事果たしました。



社会福祉協議会より感謝状授与

大学在学中の継続的なボランティア活動が日野市に貢献したと高く評価され、平成29年に日野市社会福祉協議会より明星大学の学生に感謝状が贈られました。



ボランティアセンターのマスコット「きらボちゃん」

ボランティアセンターのマスコット「きらボちゃん」は、エプロン姿のカンガルー。「みなさんのお手伝いをしたい」というセンターの思いが込められています。きらボちゃんは、センター設立間もない頃、漫画研究部の学生によって考案されました。その後、別の学生が色をつけて、現在の「きらボちゃん」が誕生しました。



明星大学ボランティアセンター 「きらきらボランティアセンター」について

「きらボ」って なんですか？

明星大学ボランティアセンターは、2008年5月に開設されました。本学が有する知識・技術・人材を活かし、学内外から求められる福祉・教育・環境・災害などのニーズに対し、ボランティア精神をもって、積極的に社会に貢献することを目的としています。センターの愛称は、「きらきらボランティアセンター」です。「きらきら」は明星大学の「星」からきています。略して、「きらボ」と呼んでください。

「きらボ」って どんなところ？

「きらボ」では、学生たちの「何かの役に立ちたい」というやさしい気持ちを大切にしながら、ボランティア活動のきっかけを作るお手伝いをしています。

1

ボランティア募集の 情報を提供

多摩地域を中心に全国からボランティア募集情報がたくさん届きます。福祉・教育・環境保護・まちづくり・国際協力など分野も多岐にわたっています。これらの情報は、センター前の分野別掲示板、登録学生・登録学生団体へのメール配信で案内しています。

2

ボランティアに関する 相談の受付

ボランティアの探し方、参加するに当たっての不安・質問・注意点などセンターのスタッフが常時相談に乗っています。

3

ボランティア活動支援

ボランティア活動をしている登録学生・登録学生団体に対し、ボランティア保険料や交通費などの活動費を援助しています。別途、災害復興(国が認める)ボランティア活動費の補助も行っています。

4

ボランティア活動実績などの 情報発信

学内外に向けて、本学学生たちのボランティア活動を知っていただくことを目的として、シンポジウム、活動報告会、交流会などを企画・開催し、学生ボランティア活動の活性化につなげています。

5

ボランティア活動に関する 講座やセミナーの開催

各種ボランティア活動についての講座を企画・開催すると共に、地域におけるボランティア活動プログラムを企画・実施しています。

6

外部団体の登録

学生が安心・安全にボランティア活動に取り組めるよう、「明星大学ボランティアセンター募集情報の取り扱いに関する指針」に基づき、学外からのボランティア募集情報を受け付けています。

7

近隣の地域や学校などとの 連携・協働の推進

市役所、警察署、学校、地域の様々なボランティア、市民活動団体、福祉施設と共にネットワークを構築し、他大学のボランティアセンターや社会福祉協議会などの中間支援組織とも連携・協働しています。

センター所在地・連絡先・開室時間

場 所：22号館（大学会館） 1階 109
開室時間：月～金9:00～17:00
閉 室 日：土・日・祝・大学行事日・冬期休業日
連 絡 先：〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1
Tel：042-591-6231（直通）
Fax：042-591-6261
E-mail：kiravo@gad.meisei-u.ac.jp

交通アクセス



多摩モノレール利用：「中央大学・明星大学」駅下車 徒歩5分
※学内エスカレーター「Star way」が利用できます。

京王線利用：「多摩動物公園」駅下車 徒歩13分
※高幡不動で多摩モノレール乗り換えも可

ボランティア募集を希望される団体の方へ

当センターでは、ボランティア募集の情報を提供して下さる団体を随時受け付けています。詳しくは、kiravo@gad.meisei-u.ac.jpまでお問い合わせください。



ボランティアセンター入り口



学生の相談に乗るボランティアセンタースタッフ



ボランティアセンター内の様子
学生の憩いの場にもなっています

編集後記

畑 野

きらぼは、明星の「星」にあやかって付けられた本センターの愛称で、小さいながらもきらりと輝くボランティア活動を応援しています。本学の教育方針である「体験教育」実践の場として、学生たちのボランティア活動を安心・安全に取り組めるよう支援しています。大学生活は、人生の中でも比較的自由になる時間が多い時です。ボランティア活動を通じ、社会の一員として、色々な人と関わり、自分のあり方を見つけてほしいと願っています。（卒業するまでに一度はボランティア活動を体験してほしいです！）人のためにやった事が自分のためになっていること、自分が好きでやっていた事が、実は人の役に立ち、こんなに喜んでいただけるのだということに気づく喜び。そして、学びを活かし深めていくという貴重な経験。学生たちはボランティア活動を通して、いろいろな方たちとつながり成長しています。学生たちのボランティア活動での活躍とボランティア活動の魅力をこのNewsletterでお伝えできればと思っています。楽しみに待っていてください。地域の方々、本学教職員の皆さまには日頃からご協力いただき感謝しております。引き続き、学生たちの活動を応援していただければ幸いです。

西 田

日本では、3.11東日本大震災以降、ボランティア活動が活発に行われています。あの日起こった災害の光景から、困った人を助けたい、私にも何かできるのではと考えた人が増えてきた気がします。そんな中、若い学生ボランティアの存在は大きく、地域からの期待も高まってきているのが現状です。

4年間の大学生活で、学生たちにはボランティア活動をとおして、何かを感じ、自己の成長に結び付けていって欲しいと思います。

ボランティア活動の経験を持つ明星大生は、年間延べ8,000人を数え、さらに増え続けています。最近では、1年生から活動をする学生たちが目立ち、積極的にボランティアセンターを訪れ、「こんなボランティアをやりたい」と話しかけてきます。ボランティアセンターは、このような声に耳を傾け、より良い情報提供をしていきたいと思っています。Newsletterは、明星大生のボランティア活動を多くの人に知っていただくペーパーとして学内外にお届けしていきたいと思っています。

ボランティアセンター Newsletter

創刊号 2018.4.1 Vol.01